

海外渡航に向けた感染症対策

海外での留学・研究活動を存分に有意義に過ごすために、渡航先の安全情報及び感染症情報を事前に入手し、必要な対策を整えて、海外渡航に向けた準備をすすめてみましょう。

参考web page: 海外留学 健康の手引き(2019年4月第3版: http://health-uv.umin.ac.jp/kanren/img/ryugaku_kenko_3.pdf)

特に、感染症は身体を重篤な状態に陥れ、時に生命に危険を及ぼす可能性もあります。世界の地域毎で罹患する危険性のある感染症には差異がありますので、感染の可能性のある疾病に対する基礎知識(感染ルート・潜伏期間・主要症状)を身につけ、各々の感染症に対する予防対策(現地における日常の対策と現地に入る前の予防接種)をきちんと講じる様にしましょう。

各感染症に対する予防接種により、各個人が免疫を獲得し、感染症の発症を制御し、個人の健康を守ることが可能になります。また、社会全体でも感染症の制圧につながり、世界の健康を、そして次世代の健康を守ることにもつながります。ただし予防接種で全て守ることができるわけではないので、現地での感染対策は必須です。また、予防接種には少ないながらも副反応を伴うこともあります。有益性が危険性を上回ると考えられれば、積極的に接種することが推奨されています。接種の際には、説明書をよく読んで、効能・注意事項・副反応等について理解してから、接種するようにして下さい。

予防接種は、原則1日1本ですが、複数同時接種は医師が必要と判断した場合に可能です。ただ、複数回接種が必要なものもあり、生ワクチンの接種は27日以上、不活化ワクチンの接種は6日以上空けなければならないので、予防接種に関しては、十分な準備期間を検討してください。



海外渡航に向けた感染症対策で不明な点などありましたら、保健管理センターまでご相談ください。

